便覽ニ蒼蠅善亂聲ト云、○略中　ソノ夏秋ノ間、家中ニ多來リ、竈邊或ハ食物ニ集リ、農家ニ別シテ多キ者ハ、コバイ。筑前ト云フ、○略中　三才圖會ニ、一種不青不蒼、俗謂之麻蠅、夏大好集人體間、驅而復來、故俗謂人可憎者爲麻蠅ト云ヒ、正字通ニ、一種小者、集几案殽羞間、衆多爲擾、人恚之ト云フ、是ナリ、ソノ秋中多出テ、飛翔聲聒シク、臭ヲ慕テ庖厨ニ集リ、必卵ヲ遺シ、蛆ヲ生ズルモノハ、俗ニシマバイト呼ブ、事物紺珠ニ、大麻蠅大於蒼蠅ト云フ是ナリ、○略中　ソノ綠色或ハ青色ニシテ、金光アリ、聲清高ニシテ、必糞上ニ集ルモノハ青蠅ナリ、大小數品アリ、俗名クソバイ、キヌバイ備後、キンバイ、時珍負金者、聲清聒、青者糞能敗物ト云、

〔肥前國風土記〕神埼郡　蒲田郷

同○景行　天皇行幸之時、御宿此郷西薦御膳之時、蠅甚多鳴、其聲大囂、天皇勅云、蠅聲甚囂、因曰囂郷、今謂蒲田郷訛也、

〔日本書紀二十推古二〕三十五年五月、有蠅聚集、其凝累十丈之、浮虛、以越信濃坂、鳴音如雷、則東至上野國、而自散、

〔日本書紀二十齊明六〕六年十二月庚寅、科野國言、蠅羣向西飛、踰巨坂、大十圍許、高至蒼天、

〔明月記〕寛喜二年八月廿八日丁亥、心寂房來相逢語、去夜事、脚氣所爲歟、可疑、近日蠅漸弱、而落入飲食、自然不知入腹中歟、是又坐痢極毒也、蠅入腹中、多頓死者、

〔南方紀傳下〕北朝康曆元年六月、細川頼之阿波國隱居作詩云、

人生五十愧無功、花木春過夏已中、滿室蒼蠅掃難盡、去尋禪榻臥清風、

〔運歩色葉集〕蠅參（ハイアイリ）伊勢參附道者之尾、○譬諸蠅附驥尾也、

〔日本書紀一神代〕欲立皇孫天津彦火瓊々杵尊以爲葦原中國之主、然彼地多有螢火光神及蠅聲邪神、

〔釋日本紀八述義〕案、下一書文、如五月蠅而沸騰云云、五月蠅三字之訓、サハヘト讀之、今此蠅聲同點